

なア。盃は缺けてるは、茶碗は缺けてるワ。」

『夫れでかけ茶屋と云ふか。』

『悪る口丈けは一人前やなア。さア此邊で陣取しよふ。金満家の旦那見たいな氣に成て、應揚にせな可かんで。此處等が好えか、もつと高見へ往こか。』

『イヤ成る可く低い方が好えで。どんな拍子で上から美味い物が轉こんで來んとも限らん。』

『そんな賤しい事云ひないナ。さア皆來た〜。此處へ團まりや。やア荷持ツあん、御苦勞はん。』

『コラ六兵衛。馬鹿にすな。』

『オツ。怒つてるナ。』

『怒らいでかい。豪ら相に沈着りやがつて。荷持ツあんやなんて、何ちウ事吐しやがんね。途中で代り合ふや云ふたん誰奴や。誰ぞ一人でも代た者が有るかい。糞重たい物を俺一人に持たしやがつて。餘つ程途中で放て仕舞ふたろかと思ふたんやけど、片つ方の荷が俺れの荷やさかい、仕方無しに擔げて來たんぢやい。莫迦にしやがつて。』

『まア其様怒りな。歸路は替るがナ。』

『歸路は輕る成たアる哩。酒でも有るのんなら張があるけど茶げや無いかい。怪つ態な物持たしやがつて……………』

『いや濟まん〜本眞に氣の毒やつたなア。』

『いや何もお前に怒てるのんと違ふねけどナ。あの六兵衛の奴が豪ら相な顔しやがるのんがムカつくね。』

『マア宜えがナ、お前は直きに箱屋起ささいドム成らん。サア〜毛氈を此方へ……………。』

『そ。アレが憤つくね。何ちやると人に指圖しよるやろがナ。何吐してんね。毛氈見たいな物有るか。』

『其處に有るがナ。梅干並べた……………。』

『筵の毛氈か。』

『そんな事云ひないナ。夫れからグルツと幕を張ろやないか。』

『幕なんて有れへんで。』

『宜えがナ、嬬連の湯卷を取て周圍へ吊たら宜えね。』

『ア、成る程其様往くか。オイ婢村屋。皆幕出しや。』

『兄さん御免……………。』

『コラ〜。誰や人の顔へ幕放りやがんのは。お松つアんの幕かいナ。汚いなア是れは……………。』

『六兵衛はん心惡る相にしいなや。その湯卷はまだ新やし。』